

ミカンサビダニ

○ 被害と発生生態

寄生範囲はカンキツ類に限られる。温州みかん、ユズ、夏みかん、せとみ等で被害が発生するが、キンカンでは増殖できない。

果実に多数寄生された場合は、黒褐色の汚れが生じた後に、6月～7月には灰白色の象皮状になる。8月～10月には、着色につれて表面が茶褐色～黒変し、果皮が堅くなって商品価値がなくなる。

新葉に寄生すると、ちりめん状に変形することがあるが、成葉では目立った被害とされない。

成虫は、体色が黄白色～橙黄色、長さ 0.16mm のくさび形で、脚は2対である。非常に小さいため、肉眼で観察することは困難であるが、果実上で多発したときはホコリが盛り上がっているように見える。単為生殖するとされており、卵から幼虫までは20～30日程度で、年間10世代以上を繰り返すため、急速に被害が増加することがある。

越冬は、芽の鱗片内に潜んだ成虫によって行われる。

以前はマンゼブ剤（ジマンダイセン剤等）、マンネブ剤（エムダイファー剤）で防除されていたが、1990年頃から抵抗性を持つ個体が全国的に発生しており、サビダニに効果のある薬剤を散布していない園では突発的に被害が発生することがある。

○ 防除方法

（ア）耕種・物理的防除

- ・有望な天敵は見つかっていない。

（イ）薬剤防除

- ・冬期にマシン油を散布する。
- ・シートマルチ栽培園で多発することがあるので注意する。
- ・前年に発生が認められた園では、梅雨入り前及び8月下旬に防除する。



ミカンサビダニ成虫



密集した成虫



被害果実（幼果）



被害果実（収穫時）

